ごあいさつ

中山道（なかせんどう）は、江戸時代に整備された 5 つの街道（かいどう）の一つで、江戸と京都を69の宿場で結ぶ内陸の重要な街道です。

「中仙道」、「仲仙道」とも表記するほか、特に木曽地域は険（けわ）しい山道が続き中山道全体を象徴することから、「木曽街道（きそかいどう）」ともよばれました。

東海道は慶長 6 年（1601）に、中山道は翌年の慶長 7 年に、伝馬（てんま）制度が設けられ、松並木や一里塚、各宿場が整備されていきました。

江戸後期になると、伊勢参りが代表するように庶民の旅が盛んとなり、全国の名所旧跡などを題材にした数多くの「浮世絵（うきよえ）」が発行されました。

こうしたなか発行されたのが、歌川広重（うたがわひろしげ）と渓斎英泉（けいさいえいせん）が合作で描いた「木曽海道六十九次（つぎ）」で、宿場や街道の四季折々の風景だけではなく、旅人など様々な人々の生き生きとした姿が描かれています。（「次（つぎ）」 は宿場をあらわします。）

本展は、パネルにした「木曽海道六十九次」を定期的に入れ替え、展示するものです。

江戸時代の旅に思いを馳（は）せながら、ゆっくりとご鑑賞くだされば幸いです。

最後になりましたが、このパネルを快く貸してくださいました、中山道みたけ館様に厚くお礼申し上げます。

2023 年 11 月吉日

中山道加納宿まちづくり交流センター活用協議会